

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人札幌市芸術文化財団	
施 設 名	札幌コンサートホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	15,475	(千円)
	公 演 事 業	4,418 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	11,057 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	Kitaraのバースデイ～ 札幌 with 安永 徹&市 野 あゆみ	令和2年8月20日(木) ～無期限で動画配信※	代替事業としてアソシエイト・アーティスト による演奏動画を無期限無料配信※ ヴァイオリン/安永徹、ピアノ/市野あゆみ	目標値	1,400
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	3,352 ※
2	オペラティック・ニュー ーイヤー ～オペラの名 場面をあなたに	令和3年 1月11日(月祝)	指揮/沼尻竜典、ソプラノ/砂川涼子 独唱・合唱/びわ湖ホール声楽アンサンブル 管弦楽/札幌交響楽団	目標値	1,480
		札幌文化芸術劇場 hitaru		実績値	702※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	Kitara あ・ら・かると	令和2年5月12日 (火)～6月10日 (水) 動画配信※	代替事業として「アダムさんのオルガンコンサート」を期間限定無料配信※ オルガン／アダム・タバイディ 他	目標値	12,000
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	2,524※
2	Kitara ランチタイムコンサートシリーズ	令和2年8月8日 (土)	マトリョミン・アンサンブル ◆5月23日(土)ハンブルクトリオ、 6月13日(土)ワーヘリは開催中止※	目標値	900 (300×3 公演)
		札幌コンサートホール 小ホール		実績値	112※
3	Kitara ファースト・コンサート	令和2年9月17日 (木) 撮影、11月下旬 DVD 配布※	代替事業として鑑賞教材 DVD を制作、 市内・市近郊の小学校に無料配布※ 管弦楽／札幌交響楽団	目標値	20,000 (教員、 関係者等 を含む)
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	276校※
4	パイプオルガン特別講義 &オルガン体験レッスン	令和2年6～8月 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止※	目標値	140
		札幌コンサートホール 大ホール、大リハ ーサル室		実績値	—※
5	専属オルガニストによる アウトリーチ	令和2年11月9日 (月)、10日(火)※	オルガン・お話／吉村怜子 ◆札幌市立澄川小学校公演は新型コロナ ウイルス感染症の影響により中止※	目標値	約100
		札幌市立大谷地東小学 校体育館※		実績値	350※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

■札幌コンサートホールは、札幌の豊かな音楽文化をつくり、市民と音楽の喜びを分かち合う、「音楽とともにある街、札幌」をつくる拠点であることをミッションとしている。このミッションを達成する道しるべとして、次の6つの方針を掲げている。

- ①質の高い音楽鑑賞機会の提供 ②次世代の演奏家の育成や新たな聴衆の開拓
- ③子どもたちが音楽と出会い、感性を育む機会の充実 ④音楽文化の拠点として地域貢献できるホールの運営
- ⑤安心、安全で快適な環境の提供 ⑥運営の透明性と利用者の声の反映

上記の内、採択された公演事業は①・②、普及啓発事業は②・③・④が該当する。⑤・⑥に関しては、大規模改修工事を行い、令和2年11月から令和3年6月まで全館休館している。そのため、令和2年度は一部事業の休止、運営規模の縮小が見込まれていたが、新型コロナ感染拡大により、更に多くの事業の中止・延期が余儀なくされた。このような状況の中、音楽を人々に届ける可能性を探り、かつて経験のなかった様々な手法により、無観客での公演収録やホールの魅力を伝える映像等を配信、また音楽教材DVDの作成等の実現に至った。特に、豊富な経験を持つホールの技術スタッフをはじめ、スタッフ全ての知恵を結集させて実現した数本の公演の配信は、コロナ禍で音楽を待ち望む人々に、生きる気力を取り戻すきっかけをつくった。

■公演事業は世界最高峰の音響とホール独自のネットワークを生かし、質の高い公演の鑑賞機会を市民に提供することを目的に企画。事業番号1は新型コロナ感染拡大の影響により中止。代替事業としてホールアソシエイト・アーティストの演奏動画配信を行った。事業番号2は感染対策を講じながら、予定どおり行うことができた。

■普及啓発事業は、気軽かつ良質な演奏会を提供することで、次世代の音楽文化の担い手・支え手を育成することを目的として企画。しかし、感染症拡大の状況に鑑み、市民特に子どもの安全を確保できないことから開催中止とした公演も多かったが（事業番号1、2の内2公演、3、4、5の内1公演）、感染対策を講じたコンサート（事業番号2の内1公演、5の内1公演）や代替事業（事業番号1専属オルガニストの演奏動画配信、3鑑賞教材DVD制作・小学校無料配布）を実施した。コロナ禍で事業内容の変更を余儀なくされたが、Kitaraの役割を改めて自覚し、そのミッションを果たす公演等を実現できたことにより、今までのファンに加え、子どもたちや家族連れ等新たなホールのファンを開拓することができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

【文化的意義】コロナ禍においても、オーケストラ、オルガン、室内楽（ヴァイオリンとピアノ、テルミン）等様々なジャンルの音楽を、鑑賞的内容／普及啓発的内容、また生演奏／動画配信等、多彩な形態で市民に提供することができた。実施できた事業数は例年より減少したが、企画内容の幅は大いに広がった1年となった。特に、動画配信・鑑賞教材制作は、アソシエイト・アーティストや専属オルガニスト、道内唯一のプロ・オーケストラである札幌交響楽団等、地元アーティストの魅力を発信する好機となった。

【社会的意義】公演事業、普及啓発事業ともに、生の芸術に触れる機会を求める市民に今までと変わらない上質な鑑賞機会を提供しつつ、動画配信等を活用し、人が集まる音楽ホールへ出かけることに消極的な声にも応えた。

【経済的意義】新型コロナの影響により集客が難しい中で、公共ホールとして先駆的にコンサートを再開することで、地域の音楽界が再び活動を始めるきっかけとなった。また、少しでも多くの市民に気軽に音楽に触れていただける動画配信、鑑賞教材、アウトリーチは全て無料とし、上質な音楽に気軽に触れられる機会を創出することができた。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

(1) 公演事業

市民が感動体験できる一期一会の機会を提供することを目標に、「音楽専用ホール」としての音響とホール独自のネットワークを活かし、世界的に評価の高い音楽家による演奏で、高い芸術性と公共ホールとしての独自性のあるプログラムを実施する計画だった。事業番号1のコンサートは開催中止となったが、アソシエイト・アーティストによる演奏動画配信の代替事業を実施。コロナ禍でも創造性豊かな世界レベルの演奏に触れる機会を市民に提供することができた。無期限無料配信としており、今後は動画配信に対する市民の声や専門家の評価を集めることで、事業の効果を測りたい。事業番号2は自治体の感染症対策ガイドラインに則り50%の収容率制限を設けたため、要望書の目標値の約半数(702名)の入場者数となった。ただし、S席とA席は事前に完売になり、急遽見切れ席を設定する等、当時の感染状況を鑑みるとおおむね目標を達成できたといえる。経費については当初の予定から大幅な変更を余儀なくされたが、観客満足度は目標を上回り(来場者アンケート:92%)、「明るい選曲と歌声にコロナを忘れ楽しめた」「コロナで沈んでいた気持ちが楽しく見れた」「やはり生演奏は感動する」等、コロナ禍の市民が生演奏に感動できる機会を創出できたことは意義深い。専門家からも「新年にふさわしいプログラムで、一般受けする内容だった。年配のお客様も楽しまれていた。」と好評をいただいた。今後はコロナ禍で遠のいた市外来場者、若年層、ホールに来たことがない市民へのアピール方法に工夫を重ね、次世代のKitaraファン、クラシックファンの育成に努めていきたい。

(2) 普及啓発事業

より多くの市民に音楽に親しむ機会を提供するため、親しみやすいプログラムや低料金を心がけ、ホール開放事業・参加型事業・未就学児から入場可能なコンサートに取り組み、新規観客層がホールへ足を運ぶきっかけを創出することを目標として企画。事業番号1の音楽祭は中止となったが、オルガンコンサートのみ無観客で実施し、その演奏動画を期間限定無料配信した。本事業が対象としていた未就学児も楽しめるよう、プログラムや進行、カメラアングルに工夫を重ねた結果、高い視聴者数を獲得することができた(再生回数2,524回)。事業番号2は3公演中1公演のみ開催。当時の感染状況を鑑みると、入場者数はおおむね達成できたといえる(収容率50%で112名来場)。注目される機会の少ないマトリョミンを取り上げたユニークな企画内容で(来場者アンケート:「北海道で優れたテルミン演奏を聴ける貴重な機会」「新しく素敵な楽器を知ることができてウキウキした」等)、来場に未だ消極的な声がある中で観客満足度は93%、市外からの来場者率は32%と目標を上回った(来場者アンケート)。事業番号3はコンサートの代わりに小学校の授業で使用できる音楽鑑賞教材DVDを作成し、市内全小学校216校および市近郊の小学校63校に無料配布した。現場の教師からは「演奏の良さに加え、コンセプトが明快で、アングルが工夫されており、大変貴重な資料になっている」との評価が寄せられている。今後は視察等を通し、実際の授業の中で本教材がどのように使われているか、その効果を検証していきたい。事業番号4は開催中止、代替事業も実施しなかったが、令和2年度に行ったパイプオルガンや専属オルガニストの動画配信でオルガンに興味を持った市民に、より深く楽器について知ってもらう機会になるよう、次回開催する時には運営・広報を工夫していきたい。事業番号5は予定していた2校の内1校が中止。実施した1校については、コロナ禍だからこそより多くの児童に生の音楽に触れてほしいという学校の希望で、予定より対象者・公演数を拡大し、約350名の児童の参加があった。感染対策を講じながらの実施であったが、児童・教師共に高い満足度となり、「もっとオルガンについて知りたい」「Kitaraで生のオルガンを弾いてみたい、聞いてみたい」等の感想が多く寄せられた(アンケートより)。アーティストが学校に赴くことで気軽に子どもたちが生の音楽に触れられ、ホールやパイプオルガンに興味をもってもらえる機会となるアウトリーチの役割の大きさを再認識した。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

(1) 開催公演

①事業期間（要望書予定／実際に行った期間）

公演事業2（令和3年1月11日（月・祝）15：00／変更なし）

普及啓発事業2（マトリョミン・アンサンブル 8月8日（土）マチネ／変更なし）

普及啓発事業5（4～8月の間で1～2回程度／11月9日（月）・10日（火）1校全5公演）※新型コロナの感染拡大状況を鑑み、受入先の小学校と調整の上、当初の予定よりも遅らせた。

②事業費（要望書予算 収入／支出、実績報告書決算 収入／支出）

公演事業2（6,740,000円／11,115,000円、2,443,000円／8,543,141円）

普及啓発事業2（1,414,000円／4,991,000円、143,500円／735,011円）※中止となった（2）の公演を含む

普及啓発事業5（0円／302,000円、0円／242,000円）

◆事業期間に関しては適切であった。入場者数制限により収益が大幅に減少することが見込まれたため、広報費や出演料を抑えることで経費削減に努めた結果、事業費が当初の計画から大きく乖離した。普及啓発事業3は予定していた2校のうち1校が開催中止となったため、支出が減少した。

(2) 新型コロナの影響による開催中止公演（中止決定までの流れ、代替事業はなし）

①事業期間（要望書予定／チケット発売日／中止決定日）

普及啓発事業2（ハンブルクトリオ 令和2年5月23日（土）マチネ／3月7日（土）／3月31日（火）、ワーヘリ6月13日（土）マチネ／4月4日（土）／5月2日（土））

普及啓発事業4（講義：令和2年6月全1回、レッスン：7・8月全2回／5月7日（木）募集開始／5月2日（土））

②事業費（要望書予算 収入／支出、実績報告書決算 収入／支出）

普及啓発事業2（1）シリーズ全体で記載、普及啓発事業4（69,000円／690,000円、0円／5,746円）

◆チケット発売1か月以内に開催中止を決定し、チケット払戻に係る経費・広報費等を抑えた。入場料寄付で税が優遇される文化庁の新制度を取入れ、収入増加に努めた（助成対象公演については実績なし）。

(3) 新型コロナの影響による開催中止・代替事業実施公演（中止決定～代替事業企画・運営の流れ）

①事業期間（要望書予定／中止決定日／代替事業実施期間）

公演事業1（令和2年7月4日（土）マチネ／5月27日（水）／7月2日（木）撮影、8月20日（木）～無期限配信）

普及啓発事業1（令和2年5月3日（日・祝）～5日（火・祝）／4月8日（水）／5月4日（月・祝）撮影、5月12日（火）～6月10日（水）期間限定配信）

普及啓発事業3（令和2年9月16日（水）～18日（金）、9月28日（月）～10月1日（木）全11回／6月11日（木）／9月17日（木）撮影、11月下旬小学校送付）

②事業費（要望書予算 収入／支出、実績報告書決算 収入／支出）

公演事業1（5,900,000円／8,129,000円、0円／1,027,532円）

普及啓発事業1（6,465,000円／0円、10,000円／1,642,146円）

普及啓発事業3（24,915,000円／29,631,000円、4,000,000円／6,181,514円）

◆公演中止決定から代替事業の実施まではスムーズで適切であった。代替事業の動画配信、教材DVD配布は全て無料であり、当初の計画から収入・支出共に大きく変更があったが、コロナ禍で音楽に触れる機会が失われつつある市民・子どもたちに、鑑賞機会を提供できた点で意義があった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

(1) 事業の企画立案・実施から振り返り

当ホールは芸術監督制度を設けていないことから、主催事業は事業課事業係が主となり企画・運営している。例年企画の検討段階においては、音楽企画アドバイザーおよび各種委員会（企画専門委員会、リスト音楽院セミナー実行委員会）に専門的な助言を求めているが、令和2年度についてはコロナ禍での主催事業の在り方や、自粛により生の音楽に触れる機会が失われている子どもたちへの鑑賞機会の提供等についても広い意見をいただいた。施設の統括責任者として支配人（コンサートホール事業部長）をおき、札幌市の施策や関係の条例等の見地から公正中立な管理運営を行っており、令和2年度は新型コロナの影響により感染対策や財務経営等様々な面で財団として統一された方針が必要とされたことから、財団全体での情報共有を綿密に行い、安心・安全な施設を提供できた。

(2) 札幌のニーズ、Kitaraの強み

札幌コンサートホールは世界最高峰の音響を活かし、国内外のアーティストや道内唯一のプロ・オーケストラである札幌交響楽団、全国トップレベルの市内学校合唱部・吹奏楽部等を起用することで、豊かな音楽文化をつくる拠点として多彩な事業を展開している。また、クラシック音楽に関心が高い市民の声により設置されたパイプオルガンは、当ホールのシンボルともいえる。令和2年度は海外アーティストの招へいが困難な状況下において、Kitaraはヨーロッパから1年間の任期で招へいしている専属オルガニストが常駐していたことで、コロナ禍においても優れたオルガン事業を市民に提供し続けることができた意義は大きい（普及啓発事業1、3、4、5）。

(3) 令和2年度採択事業における専属・連携団体・連携施設の存在

下記、専属アーティスト、団体・施設との連携によりホール独自の企画の幅を広げ、改修工事に伴う休館およびコロナ禍においても上質な事業を継続、安定して供給することができたほか、中止公演については代替事業をスムーズに実施することができた。

●公演事業

- ・地元プロ・オーケストラの出演（札幌交響楽団）：事業番号1、2
- ・札幌コンサートホールアソシエイト・アーティストの出演（平成31年度より起用）：
事業番号1（代替事業の動画配信にも出演）
- ・道外のホールの優れた演奏団体の出演（びわ湖ホール声楽アンサンブル）：事業番号2
- ・同財団が管理する劇場との連携（札幌文化芸術劇場 hitaru）：事業番号2

●普及啓発事業

- ・札幌コンサートホール専属オルガニストの起用：事業番号1、3、4、5
- ・地域創造登録アーティストの出演：事業番号1
- ・地元プロ・オーケストラの出演（札幌交響楽団）：事業番号1、3（代替事業の教材制作にも出演）
- ・地元の教育機関（音楽大学、中学校）との連携：事業番号1、4
- ・コンサートホール企画連絡会議のネットワークの活用：事業番号2（アクロス福岡との連携事業）
- ・札幌市・札幌市教育委員会との連携：事業番号3（代替事業の教材制作にも参加）、5
- ・地元オルガニストを起用した教育普及事業：事業番号3（代替事業の教材制作に出演）、5
- ・HBC ジュニア合唱団（地元テレビ局が運営している合唱団）の出演：事業番号1

自己評価

地域の実演芸術等の振興等、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

(4) 実施事業の企画内容、芸術性について

①市民への世界レベルの演奏の鑑賞機会の提供

公演事業1「Kitaraのバースデイ～札幌 with 安永 徹&市野 あゆみ」（代替事業「安永 徹&市野 あゆみ スペシャル・デュオ・コンサート in Kitara」無期限無料動画配信）

公演事業2「オペラティック・ニューイヤー～オペラの名場面をあなたに」

普及啓発事業2「Kitaraランチタイムコンサートシリーズ」

◆**公演事業1**は「札幌から世界につながる私たちのKitara」をコンセプトとし、ホールアソシエイト・アーティストと札幌交響楽団による演奏で、市民が豊かな地元音楽文化の魅力を再発見できる機会となる予定だったが中止。代替事業の親しみやすい小品の演奏動画配信はアソシエイト・アーティストの新たな魅力を発見する機会となり、無期限配信としたことで半永久的に市民が気軽に上質な演奏に触れ続けられる点で意義深い事業となった。**公演事業2**は改修による休館のため、札幌文化芸術劇場 hitaru を会場として実施。オペラの指揮に定評のある沼尻竜典、音楽界の第一人者である砂川涼子、びわ湖ホール声楽アンサンブルの若手声楽家集団を招へいし、会場の特色を最大限に生かした華やかなコンサートとなった。日本人によるオペラ作品（沼尻竜典『竹取物語』）の魅力も市民に紹介することができた。Kitara ファンに加え、hitaruファンやオペラファンも取り込むことができた。**普及啓発事業2**では、世界初の電子楽器テルミンとロシアの民芸品マトリョーシカを組み合わせた、知られざる楽器「マトリョミン」の魅力を、日本のテルミン界の第一人者である竹内正実のお話付きで紹介した。

②専属オルガニスト、地元オルガニストによる多彩なオルガン普及事業

普及啓発事業1「Kitara あ・ら・かると」（代替事業「アダムさんのオルガンコンサート」動画配信）

普及啓発事業4「パイプオルガン特別講義&オルガン体験レッスン」（開催中止）

普及啓発事業5「専属オルガニストによるアウトリーチ」（代替事業 地元オルガニストによるアウトリーチ）

◆**海外アーティストの招へいが難しい中でも、専属・地元オルガニストにより良質なオルガンコンサートや教育活動を続け、Kitaraが誇るパイプオルガンの魅力を広く紹介することができた。**動画配信を行うのは令和2年度が初めてであったが、優れた音響や多彩なアングルでオルガンの魅力を余すところなく伝えられる動画を制作できたのは、オルガン普及事業を継続してきたノウハウの蓄積による。**普及啓発事業1**は、第21代専属オルガニストが故国の作曲家による作品を披露し、オルガニストをより身近に感じてもらえる機会となった。

③コロナ禍の子どもたちへの鑑賞機会の提供

普及啓発事業1「Kitara あ・ら・かると」（代替事業「アダムさんのオルガンコンサート」動画配信）

普及啓発事業3「Kitara ファースト・コンサート」（代替事業 音楽鑑賞教材制作）

普及啓発事業5「専属オルガニストによるアウトリーチ」（代替事業 地元オルガニストによるアウトリーチ）

◆**普及事業1**では、コロナ禍で自粛生活を強いられている子どもたちが楽しめるよう、司会によるお話を交え、親しみやすい内容とした。また、視覚的にも楽しめるよう奏者の手元や足元、ホールやオルガン全体の様子が分かるカメラアングルを工夫した。**普及啓発事業3**の代替事業 音楽鑑賞教材制作は、小学校の教科書に準じて選曲。様々なヴァリエーションの演奏を収録する等、子どもたちが年齢に応じて学習を深められるように工夫した。市内全小学校および市近郊の小学校に配布した教材は、コロナ収束後も普遍的に授業で活用することができる点で効果が高い。**普及啓発事業5**は、日程変更により地元オルガニストによるプログラムを実施。感染防止対策のため、児童参加型のプログラムは控えることとなったが、事前に収録した Kitara の大オルガン映像と小学校に持ち込んだポジティブオルガンのリモート合奏を行う等、新たな試みで鑑賞機会が失われつつあった約350名の子どもたちに生の音楽の素晴らしさを伝えることができた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

(1) 人材における持続性について（演奏家、ホール職員）

海外や道外からの演奏家の招へいが難しかった反面、地元演奏家（専属オルガニスト、アソシエイト・アーティスト、札幌交響楽団等）との連携で、その魅力を生の演奏、動画配信、鑑賞教材等多彩な形で発信できた1年となった。ホール職員に関しては各種オンライン研修に取り組んだほか、財団が管理する他施設での主催公演実施等を通して、事業運営に関わる見識を広げるよう努めた。また、改修工事に伴う休館を活用し、ベテラン職員による新人研修・講習を積極的に実施することで、職員間で相互に育成できる環境を整えている。

(2) サポーターにおける持続性について（KitaraClub 会員、Kitara ボランティア）

ホール開館時より継続している有料会員制度の友の会「KitaraClub」は会員の高齢化に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度は一般会員・法人会員ともに会員数が減少した（平成31年度より625名、約12.1%減）。令和3年度はKitaraClubも継続しつつ、専用アプリによる無料会員制度を創設することで、新たなKitaraファンの獲得を目指していく。KitaraClub会員の有志が参加する「Kitara ボランティア」は例年と変わらない84名の参加があり、15%超と高い新規参加者率となった。令和2年度は活動の自粛が余儀なくされたが、コロナ禍で活動ができないホールや演奏家を支援したいという参加者の強い想いに支えられ、現在は感染対策を講じながらボランティア活動を再開している。

(3) 他施設、地元の団体・教育機関との連携における持続性について

公演事業2ではびわ湖ホール声楽アンサンブルの若手声楽家を起用。普及啓発事業2では全国6館から成るコンサートホール企画連絡会議のネットワークを活用し、注目される機会が少ない楽器の魅力を発信することができた。改修工事に伴う休館と新型コロナウイルスの影響により実施できなかった地元音楽大学および市内中高校との連携事業については、次年度は再開し、地元の若手演奏家の育成や地元の学生の芸術活動の紹介を継続していく。また、令和2年度は長年教育・普及事業で築いてきた札幌市、札幌市教育委員会、札幌交響楽団との協力体制により、コロナ禍でありながらも多くの子どもたちに上質な音楽の鑑賞機会を提供することができた。

(4) 経営における持続性について（財源の確保）

令和2年度は当ホールをはじめ財団が管理・運営している他施設の多くの貸館収入が減少、主催事業の中止・内容変更が余儀なくされ、当初の予定から収支ともに大幅な額の変更が見込まれたため、財団全体の調整、ホール内管理課と事業課との調整を綿密にした。令和3年度の主催事業は日本人アーティストを中心としたラインナップとすることで、日本人アーティストの魅力を今まで以上に伝える機会としつつ、開催中止に伴う財務経営の変更を最小限に抑えるようにしたい。また、令和2年度の経験を生かし、新型コロナウイルスが収束しない中、今後も直面する厳しい状況を乗り越えていくため、職員一丸となりホールの運営に尽力したい。

(5) 施設・主催事業の安心・安全な運営における持続性について（改修工事、新型コロナ対策）

令和2年11月～令和3年6月の改修工事（天井の補強工事、設備機器の改修等）により、今後も市民が安全に利用できる施設設備を整える。また、新型コロナに対しては、ガイドラインに従った感染防止対策を徹底し、安心感を持って利用・来場できる施設を目指す。鑑賞事業1アソシエイト・アーティストの演奏動画やパイプオルガンの紹介動画は無期限無料配信とし、今後も多くの市民が家にいながらにしてKitaraやオルガンの魅力に触れることができるようにする。生の芸術に触れる機会を求める市民には今までと変わらない上質な鑑賞機会を提供しつつ、今後は動画やSNSも活用し、人が集まる音楽ホールへ出かけることに消極的な市民の声にも応えていく。